

伊藤次郎左衛門家四百年

～清須越から揚輝荘～

I 伊藤家十五代（年表）

始祖祐広（すけひろ）	信長小姓（蘭丸）、800 石、若江城で戦死、妻・千村氏
初代祐道（すけみち）	信長小姓（蘭丸）、妻・千村氏、信長と犬山銀名水（奥村邸）立寄り 源左衛門、清須越、本町で呉服小間物問屋「伊藤屋」創業、 大坂夏の陣参戦後藤又兵衛の陣で戦死、安福寺に両軍戦死者の碑
二代祐基（すけもと）	茶屋町で呉服小間物問屋再開、以後、次郎左衛門名乗る、万治の大火
三代祐蔵（すけただ）	店を新築拡張、安福寺に髪を埋め碑を建てる
旧（すけくら）	
四代祐政（すけまさ）	京町桜井氏、妻・伊藤仁兵衛家、店舗拡張 この頃から、「奉公人関係証文」「御触留書」残る
五代祐寿（すけとし）	呉服太物小売商に転業、「六ヶ条掟書」、京都仕入れ店開設
旧（すけひさ）	享保の象、茶屋町通る、御用係
六代祐圭（すけたま）	京都室町に仕入店開設、「十四ヶ条掟書(祐寿)」
旧（すけかど）	
七代祐潜（すけずみ）	早世、京都新町に移転、京店へ豊彦稻荷分祀
旧（すけゆき）	
八代祐清（すけきよ）	早世
九代祐正（すけまさ）	早世、伊藤家横領事件
十代宇多（うた）	再建
十一代祐恵（すけさと）	「十七ヶ条家訓」、上野松坂屋利兵衛買収「いとう松坂屋」、 商標伊藤丸、火事多発、大売出しで盛況
旧（すけよし）	
十二代祐躬（すけちか）	藩主お目見え(十一代宗睦)、町方役所御勝手御用達 七人扶持、御用商人筆頭三家衆、木綿問屋開業（鶴店、後のサンメン）
旧（すけみ）	
十三代祐良（すけよし）	上野・飢餓救済、北町奉行褒詞、商号「いとう」 尾張藩お召服承り手違い、御用差止め、1 万両上納、 御用金多発、大般若経 600 巻写経
十四代祐昌（すけまさ）	上野戦争、明治維新、御用金、藩債回収、名古屋商法会議所会頭、 伊藤銀行設立、商号「いとう呉服店」、「店則四十三ヶ条」制定、 「衣道楽」発刊（通販）、大阪ゑびす屋伊藤呉服店開店
十五代祐民（すけたみ）	渡米実業団で視察、(株)いとう呉服店設立（栄町角デパート） いとう呉服店少年音楽隊結成 ビルマから留学生預かる 関東大震災・駆逐艦で上京、支援、銀座店開店 南大津通りに「松坂屋」、全店屋号統一、静岡店開店 ビルマ・インド佛蹟旅行 揚輝荘構築

2 店

碁盤割、尾張名所図会、東照宮祭、窮民お救いの図、茶屋町店・見取り図、商標「いとう丸」
茶屋町現況、店舗移転図、(株)いとう呉服店(栄角)、上野店店頭絵図、上野浮世絵(広重)
のれん(漱石句)、京都仕入れ店(染織参考館)、掛札、墓所(日泰寺)

3 伝統行事

(1) お帳綴じ

①「火用心」②「諸悪莫作衆善奉行」③「受諸飲食當如服藥於好於惡勿生増減」
掛札(祐良、祐昌、祐民)、市民見学会

(2) 豊彦稻荷初午祭

仙洞御所の御所稻荷を勧請
天保12年賽銭箱、
勧進帳
私有地

(3) 大般若経転読

祐良写経600巻
転読、仏教ミュージカル
市民見学会

4 古文書

(1) 奉公人関係台帳

(2) 御触留書

(3) 家訓、掟書

(4) 帳面類

(5) 名古屋城宝暦の大修理図面

5 揚輝荘

(1) 歴史、地形、建物、留学生

(2) 北園、伴華楼、三賞亭、紅葉

(3) 聴松閣

虎、壁画、舞台、古代瓦、はつり、各国建築様式
復元⇒扁額、物干し・展望台、舞台・緞帳・ガラス彫刻、食堂
⇒未定のもの、噴水、吹き抜け階段手すり照明、支那間行燈

6 座敷

襖取手(うさぎ、月形)

以上